

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 2 0	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Glycemic effects of moderate alcohol intake among patients with type 2 diabetes: a multicenter, randomized, clinical intervention trial.</p> <p>Ⅱ型の糖尿病患者における適度なアルコールの摂取量と血糖影響について:無作為抽出された臨牀介入試験より</p>	
執筆者	
Shai I, Wainstein J, Harman-Boehm I, Raz I, Fraser D, Rudich A, Stampfer MJ.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Diabetes Care. 2007 Dec;30(12):3011-6.	
キーワード	
Ⅱ型糖尿病、空腹時血糖値、食後血糖値、飲酒の効果	
要 旨	
<p>目的： 無作為抽出試験において、断酒における糖尿病患者の空腹時血糖値と食後血糖値への影響を調査した。</p> <p>研究デザインと方法： Ⅱ型糖尿病の 109 名の対象者（41 歳から 74 歳）を無作為に割り当て、一方にはワイン（13g アルコール）を 150ml、もう一方にはノンアルコールダイエットビール（コントロール群）を 3 ヶ月間隔日に飲んでもらった。飲むのは夕飯中、食事とアルコール量は記録した。</p> <p>結果： 介入試験中に 17%の対象者（そのうち 12%が飲酒のグループ）が中断し、91 人が継続できた。3 ヶ月後の比較で飲酒のグループでは空腹時血糖 (FPG) は 139.6±41 から 118.0±32.5 に下がりコントロール群では 136.7±15.4 から 138.6±27.8 であった (P(v) = 0.015)。しかし、食後 2 時間の血糖値はアルコールの影響を受けなかった。(コントロール群では 18.5 mg/dl で飲酒群では 17.7 mg/dl の違いであった P(v) = 0.97)。ベースライン時に HbA1C が高値を示した飲酒群の患者で血糖値の下げ幅が大きかった。(年齢調整相関係数 -0.57, P(v) < 0.001)。ビリルビン、アルカリフォスファターゼ、アラニンアミノ基転移酵素、アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼにおいても優位差はなく、特に有害な作用も見られなかった。アルコール群では眠りが良くなったという結果が得られた (P(v) < 0.001)。</p> <p>まとめ： アルコールを以前に絶ったⅡ型糖尿病患者が中等度の毎日の飲酒を再開すると空腹時血糖は下がったが、食後血糖は下がらなかった。 A1C が高かった患者ではアルコールは血糖値に及ぼす好ましい効果を得られるかもしれない。中等度の飲酒の長期効果を確認するためには更なる研究が必要である。</p>	